

わが家の山んば様

斧研 伊織

ぼくの家には山んば様がいらっしゃる。この山んば様、世界最強なのだ。家族全員がインフルエンザにかかっても、山んば様は一人だけ元気でぼく達のお世話に動き回っていた。強健な体だ。ようち園のとき読んだ絵本の中の山んばは、最後はよもぎの汁で体がぐさり、しようぶの葉で体を切られて死んだけど、うちの山んば様はちがう。毎年正月によもぎもちを食べて年々大きくなり、ビールを飲みながらしようぶ湯に入って、最高だと言う。しかも、ぼくの心の中が分かるんだ。ぼくの顔を一目見ただけで、学校でいやなことがあったと分かる。うれしいことがあったと分かる。ふしぎだ。

友達とあのことがあったとき、だれにも言えなくて、はずかしくて、苦しくて、心がはれつしそうで、思わず山んば様に言ってしまったことがある。するとなぜか次の日には全てのことがかい決していた。山んば様には、ま力があるようなのだ。おそろしい。

このお方の弱点は何だろう。どれだけ考えても分からない。だけど、聞いてみたらかん単に教えてくれた。

ぼくが先に旅立つこと。

それは山んば様の心をにぎりつぶし、山んば様の体にこま切れにするようないたみを与えるのだそうだ。そんなことになったら、あの世で会ったときにグーパンチを百発くらわせてやると言っている。そしてえんま大王のパンチをうばい取って、したをひっこぬいてやるとおどしてきた。このお方なら、えんま大王も負けるかもしれない。本当におそろしい。しかも百二十才まで生きるとせん言しているんだ。そのとき、ぼくは九十才だぞ。だからぼくは好ききらいはしない。魚も野菜も食べる。早ね早起きをして、ゲームだって週にたったの二回だ。虫菌になったこともないし、ここ数年は病院にも行っていない。毎日かいべんだ。えんま大王にとつぜんつれて行かれないように、毎日がんばっているんだ。

こうしてよく考えてみると、先に旅立たないって、ぜったいにやくそくすることのできない、とてもむずかしいことなんだ。だけど、いつでも元気なぼくでいて、毎日山んば様を安心させてあげたいなあと思っている。だって、外でどんなにつらくても苦しいことがあっても、一歩家に入るとなぜかほつとする。うれしいことがあったら、百倍幸せな気持ちになる。世界最強の山んば様が、毎日ぼくを守ってくれているからだ。百発グーパンチをくらわないように、一日一日を大切にしていこうよ。九十才かあ。約束はできないけど、今のところは大好きだ。だからこれからもぼくをよろしく、山んば様。いや、ぼくのお母さん！

評価のポイント

日常生活の中にあるたくさんの「ありがとう」に気づかせてくれる作品。